

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774901132		
法人名	平成建設興業株式会社		
事業所名	「さらそうじゅ」の家		
所在地	大阪府富田林市若松町1丁目1247-4		
自己評価作成日	平成29年5月15日(月)	評価結果市町村受理日	平成29年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JirvosyoCd=2774901132-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとり、ゆとりある生活ができるように、日々ライフスタイルを利用者さま自身で決めていただく。例えば、最大限自由な起床、就寝、入浴時間、散歩等の取り組みをしながら日々の生活の変化も見逃さないように心身の状態を観察し気づきを多く持ち、一人ひとりに対応しています。今年も恒例の家族様と行く 日帰り旅行には、天神橋筋6丁目にある 大阪くらしの今昔館に行き、昔の生活を思い出され、懐かしんでおられました。その帰りには日本一長い商店街をぶらぶらし、途中で、美味しい中華料理をお腹いっぱいよばれました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人の理念である「心」を大切に、利用者の思いに寄り添いその人らしい暮らしができるよう職員は連携を図りながら日々支援をしています。近隣に住んでいた方の入居が多く、馴染みの場所への散歩や買い物、地域行事に出かけたり、通っていた整骨院や美容院等への外出支援をするなど、自宅に居た時のような暮らしを支援しています。また地域との関係も良く消防訓練に近隣の方の参加があったり、昨年ホームの隣に建てられた「げすとはうす」を地域に開放し、パン教室やヨガなどが行われ利用者も見たり参加するなど交流する機会が広がっています。更に協力医との連携が図られ、定期的な往診に加え、運営推進会議やサービス担当者会議、年に1回行う日帰り旅行へ協力医にも参加を得ており、利用者や家族の安心に繋がるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援に向けての取り組みを共有し実践した結果 一人の利用者様が 退所されて近隣のマンションで暮らされている。	法人の理念である「心」の実践に向け「笑顔で会話 みんなで考える 実現に向けて行動する」とホームの三本柱の方針を作り、事務所やフロアに掲示したり、毎朝唱和し意識するようにしています。利用者の思いに寄り添い、在宅復帰に向けて取り組んだり、その人らしい暮らしができるよう職員は連携を図りながら日々支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会は、盆踊り、だんじり祭り、餅つき大会、等 老人会は、敬老会 その他行事は、寺内町新春初鍋めぐり、お雛様めぐり、石川河川敷の鯉のぼり、PLの花火 寺内町灯ろう祭り、農業祭、公民館祭、富栄戎へお参り、ラミー保育園園児さんによる敬老会 地域のボランティアによる歌と演奏、ラン伴に利用者様と参加 小学6年生卒業記念ボランティアの子供達を迎える等 種々 地元の行事に参加して交流を深めている。	地域とのつながりが強く、多くの地域行事が開催されており雛巡りや鯉のぼりを見に行ったり、自治会や老人会から回覧板等で情報をもらい盆踊りや敬老会へ参加するなど、利用者は地域に出かけ多くの交流を持っています。昨年ホームの隣に「げすとはうす」を建て、地域に開放したりパン教室やヨガなどが行われ利用者も見に行ったり参加しています。また昨年度から利用者の作品を展示するホームの文化祭を開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居の高齢者、地域の方々に声がけて、事業所の行事に協力して楽しんでいただけるよう取り組んでいる又グループホームの皆さんで作った作品を展示し楽しんで頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で利用者様、ご家族のサービスの評価を種々議案にもりこみ、委員で話し合い向上に活かしています。会議録等はご家族に郵送しています。	会議は利用者や家族、地域代表、知見者、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。運営状況や行事等を報告し、要望を聞いたり意見交換を行いアドバイスを受けています。外出場所の提案を受けたり整理整頓や清潔保持についての助言をもらい、実行したことを次回に評価を受ける等、運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員になっていただき報告書を市役所に提出する。恒例の旅行等にも参加していただき、行き来する機会をもち、また、「びあ」相談員の月1回の来訪でサービスの向上にとりくんでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席できない時に市の担当者の出席があり、意見やアドバイスをもらったり、ホームの日帰り旅行の際に必要な車いすなどの備品を借りれる所を教えてもらう等良い関係を築いています。また研修案内があった時には職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修を受けて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを回覧して正しく理解しケア向上に取り組んでいる。	身体拘束についての外部研修を受講した職員がホームで伝達研修をしたり、具体的な記載のあるマニュアルで職員に周知しています。事例検討等を行い利用者の立場に立って考え言葉かけで行動を止めないよう注意し、外に行きたい様子があれば見守りながら一緒に出掛けています。職員体制が整わない場合に一時的に玄関の施錠をすることもあります。	

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修を受講して、虐待防止を職員全員に周知してもらい、遵守する。マニュアルを回覧して正しく理解しケア向上に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修や、民間事業者対象社会福祉研修を受講し、必要な方には、活用できるよう支援している。(現在身寄りのない方はいらっしゃいません)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、契約書を利用者様、ご家族の前で読み上げて説明をして理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ぴあ」相談員の派遣を受け入れて運営に反映している。定期的に家族会「きずな」を開きご意見を運営推進委員会で議題にとりあげて運営に反映させています。「きずな」の会議録は欠席の方に郵送しています。	2か月毎の運営推進会議前に家族会を開催し、面会の少ない家族にも支払いを兼ねて来訪してもらい、様々に意見や要望を聞いています。個別の支援に対する意見が多く、本人の意向も加え個別外出や携帯電話の管理などの支援に繋がっています。また3か月毎に家族に便りを出したり「げすとはうす」で行われる行事を知らせホームの事を知ってもらい、外出先の提案をもらい出かける等意見を受けてサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、申し送り時等随時提案できる機会をもち、理念通り実行できる体制をとっている。	会議は常勤会議と非常勤会議に分けて実施し、欠席の職員にも会議の内容を伝え全職員が意見を出し合え情報共有ができるよう取り組んでいます。体操が定期的に行われるように検討し実践したり、レクリエーションや整理整頓等の担当者が中心になって意見や提案が出され運営に活かしています。法人による年に1度の面談の他、日常の様子から声をかけて面談を行い、個別に意見や希望、相談事を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の取りたい資格について研修を受けれるように、取り組んでいる。資格が取れた時には給与アップに繋がっている、その事がやる気やケアの向上に生かされている。勤務状況については事前に職員の意見を聞き、作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自担当をもち、それぞれの分野で企画立案し会議で発表して全員で取り組むシステムを構築、相互に育成しあう。主任、計画作成担当者、管理者は、職員の段階に応じてサービスの向上につながる指導をして研修を受ける機会も確保している		

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の取組みの「なわなわネット」や研修会で交流を図っています。同業者の広報誌を相互に郵送したり、訪問して交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際に見学に来ていただき、お話を伺い、お試しで入居していただけるシステムがあり安心して、生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に見学にきていただき、お話を伺い、不安がないよう説明し受けとめるようにしています。お試し期間がありますので、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、他のサービスが適していると考えたときは、その説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が洗濯物を干す、たたむ食事の準備 配膳、食器洗い、買い物等一緒に行うことで暮らしを共同士の関係を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に「報告、連絡、相談」を徹底し、一緒に支えていく関係を築いている。また、ホームの隣に新しく建設された、げすとはうす で家族様と利用者様が落ち着いて、食事やお茶、おやつ等食べて頂く場所が増えたのでより一層来て頂ける 回数が増えました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の整骨院通い、毎日の散歩、利用者様が自分の会社へ行き仕事であった草ぬき、ゴミ拾い等を続けている。個々で大切にされている人や場の関係継続の為に支援に努めています。ホームには友人の来訪がよくありますが、ホームの隣に新しく「げすとはうす」ができ、来訪された方々が落ち着いて食事やお茶、おやつ等を食べて頂く場所が増えた事で、より一層友人の方が来て頂ける回数が増えました	近隣に住んでいた方が多く、散歩や買い物、地域行事に出かけ、馴染みの方に会うこともよくあります。自宅を見に行ったり馴染みの整骨院や美容院等へ通う支援をしたり、友人や家族に年賀状などを出す際にはハガキの準備や宛名書き等の支援をしています。家族と墓参りや受診に行ったり冠婚葬祭への出席の際には、スムーズに出かけられるよう準備をしています。	

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、お互い支え合う関係ができています。食事の時間をより楽しい時間になるように食卓の配置を考慮するなど工夫しています。就寝時には利用者様同士で声を掛け合い、一緒に2階へ上がり談笑してから就寝する場面がよく見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の参加のお誘いや気軽に立ち寄っていただけるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々の会話や聞き取りなど様子を観たり感じ取り把握し 申し送り、ケース会議などの際に職員間で意見を出し合い、利用者様が望む暮らし・意向を職員全員が理解し、本人本位のケアを常に考え実践するよう努めている。	入居時に以前の担当のケアマネジャーや利用していた事業所から情報を得たり、面談の際に生活歴や現在の生活状況、希望などを聞き、思いや意向の把握に努めています。入居後は日々の様子を記録に残し、毎月の会議で気づいたことや表情や行動などから本人本位に話し合い、把握困難な利用者の思いも汲み取れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と会話をして感じ取り、ご家族様、入居者様の前のケアマネージャ方、関係者皆様からお話を伺いそのつど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会議、介護日誌、申送りノート等で心身状態・有する力の現状を総合的に把握し、またその日の状態に合わせたケアを行うことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様からの意見・想いなどを反映し、担当者会議 ケース会議などで 課題を表出し 担当する職員が中心になってモニタリングを行い介護計画を作成している。また日々の申し送りの際に気づいた事はその都度報告している。	利用者の思いや家族の意向、アセスメントを行い、サービス担当者会議等で話し合い介護計画を作成しています。毎月ケース会議で利用者の変化や状況を把握し、3か月毎に再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き計画を見直しています。サービス担当者会議には家族やかかりつけ医等の出席もあり、様々な意見を出し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の介護日誌、申送りの記録等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。ケアの統一にもつながる。		

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に応じて弊社の有する他部門の事業を活用したり他事業者へ依頼する等柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ 町内の老人クラブ、民生委員の方に雑巾を縫って頂く。フラダンス・三味線、歌やピアノ演奏等して頂く 警察署、徘徊ネットワーク等協力していただく。消防署、防災訓練・救急救命訓練・自主防災等連携。文化、教育機関 幼稚園児との交流、図書館の利用等種々協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の道路を挟んで前の医院が主治医であり日頃より利用者様のことを理解していただき、往診も可能で、利用者様、ご家族は、喜んで納得されている。そして診療科目によって、それぞれの病院に受診できるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医が協力医であったため継続し、それぞれの状況に合わせて受診や往診で診察を受けています。協力医は相談しやすくサービス担当者会議や行事等への参加があり、日頃の利用者のことも知ってもらっています。専門医への受診は家族が付き添い、歯科や眼科、皮膚科は往診に来てもらえる体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医院の看護職員の方や薬剤師の方に相談して医療活用の支援をしている。また、訪問介護と連携を図り、個々で適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な時に随時、カンファレンスをしたり、入院時には介護サマリー 介護計画書を渡すなど種々情報交換をして、入院しても早期に退院できるように努めている。(協定を結んでいる病院もあります。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の容態を、主治医に説明していただき ご家族と職員(管理者、計画作成担当者、主任等)三者で話し合いご意向に添った方針でケアの取り組みを共有し出来る限り事業所で安心して生活をしていただき出来ないことを見極め地域の病院で入院の手続きや準備手配を支援している。	契約時に医療行為ができないことや食事が摂れなくなったらホームでの生活が困難であることを伝えてあります。介護度が上がったタイミングで施設への入居申し込みを勧めたり、重度になった時に医師が判断し家族に状況を説明し、本人や家族の希望を聞きながら話し合いを重ね方針を共有し、職員間や医療、家族と連携をとりできる限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が人工呼吸、AED使用の講習を受けたり、定期的に訓練を行っている。		

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の総合訓練(避難・通報・消火)の他、地震や水害時などの非常災害マニュアルの作成し、非常災害を想定した避難訓練も行っています。また、施設前の消防分団や地域の方々との連携を図り協力体制を築いています。スプリンクラー 火災通報装置を設置しています。	年に2回夜間の火災を想定した通報や初期消火、避難誘導の訓練と災害を想定し連絡網の確認や地域の避難場所まで利用者全員で避難する訓練を実施しています。以前地域の災害訓練に利用者と一緒に参加したり、ホーム前に消防団があり協力を依頼すると共に近隣の方の参加も得ながら訓練を行い地域との協力体制を築けるよう取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの同意について、契約時に同意書をお渡しします。プライバシーの保持を遵守し、声かけについても自然なながれの対応を心がけています。日常は言葉遣いに注意を払い居室に入る場合ノックをして(開けてもいいですか)と声掛けをする等その人の誇りやプライバシーを損ねないようにしています。	接遇マナーの研修を行い利用者を尊重した対応や言葉遣いなどを職員は学び、堅苦しくないような優しい敬語で対応することを心がけています。特に排泄支援時の声の大きさは配慮しており、不適切な対応は職員間で注意し合える関係ができています。また同性介助の希望を聞き対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時、ご利用者の意向を確認できるよう理解しやすいように説明し、「どちらが良いですか？」と伺い、自身で決めていただくように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床については、個々のペースを大切に、服薬時間を考慮して自由にされている。就寝時間についても個々のペースで支援している。入浴は、随時でき、散歩も毎日楽しまれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡を見て髪を整えたり化粧品(ファンデーション・アイライン・口紅など)を使い化粧をされたりと楽しめる。利用者様が選んだ清潔な服を着たり、理美容には利用者様の望む時期、店舗に行かれるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを聞き、順番にメニューに取り入れて、一緒に準備や盛り付け、食事、片付けをしている。季節の行事に添って手作りの食事作りを楽しんでいます。	献立は利用者の好みや旬の食材を使用し食事担当者が考え、利用者と一緒に買い物に行き食材の下拵えなどのできる事に携わってもらい食事作りをしています。食事は職員も同じものを一緒に食卓に着き食べ、介助をしたり談笑しながら和やかな食事の時間となるよう支援しています。時にはホットケーキなどおやつを手作りしたり、ホームで育てたゴーヤが食卓に上がるなど食べる事を楽しんでもらっています。また以前行っていた外食の予定も立てています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェックしている。担当者が中心になってカロリーを計算して栄養士の指導を受けている好みの飲み物で水分摂取量を増やすように工夫している。		

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等を個々の状態に応じて行っている。定期的な歯科検診、歯の磨き方講習も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表で排泄の間隔を知り早めに対応する。ご本人の様子を読み取り気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。尿意が感じれるよう出来る限りパンツ、パットで自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、仕草や様子も見ながら個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。支援を継続することで失敗が減るなど状況の変化を日々の申し送りで確認し、排泄用品の変更などを話し合いながら自立に向かうよう取り組んでいます。紙パンツを使用していた方が布の下着で過ごせるようになり、自信を持ち落ち着いた暮らしになった方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便のリズムを把握し、適度な運動、水分摂取、朝食にヨーグルトやバナナ等工夫しているが、それでも便秘ぎみの利用者様には、医師と相談して緩下剤など種々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	随時入浴できるように支援している。入浴剤を使用したり、入浴中一緒に唱歌などを口ずさんだり、個々に合わせて湯の温度の調節などを行っている。ご本人の希望や状態に合わせて足浴、手浴も行っている。	午後の時間帯を基本に希望を聞きながら入浴支援をしています。毎日や隔日など入浴の好きな方の希望に応え、一人ずつ湯を入れ替え会話を楽しんだりゆず湯等の季節湯や入浴剤を使用することもあり、ゆっくり入ってもらっています。入浴を断る方には声のかけ方の工夫しながら無理のない入浴に繋がっています。入居間もない方には家の習慣に合わせて夜間入浴にも対応していたこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の様子を感じ取り 休息されたり安心して眠れるよう環境に配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬、受診記録」で薬の目的、副作用、用法、用量について理解しており医師の指示通り服薬できるよう支援し症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことで先生になって頂き、書道・はり絵・塗り絵・料理の下ごしらえ・配膳・縫い物・生け花など、個々の力を生かした役割を見つけ、楽しんでしてもらえよう支援している。		

「さらそうじゅ」の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩だけでなく、その日の本人の希望に応じ買い物に行ったり、外食をしたり、色々な方法で外出が出来るよう支援している。利用者様の希望を聞き、家族会、運営推進委員会、職員にアンケートを取り、年間行事として毎年、4月に家族様、運営推進委員の方々と日帰り旅行へ出かけています。今年は天神橋筋六丁目にある 大阪暮らしの今昔館へ行ってきました。	季節を問わず毎日散歩に出かけたり、買い物や洗濯物干し、花の水やりなどでも日常的に外気に触れています。初詣や花見、地域で行われる様々な行事に参加する等、多くの外出を支援しています。年に1度の日帰り旅行には、家族や協力医等の参加を得ており、利用者は一緒に楽しむ機会となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物や外出時に利用者様が財布を持ち、希望に応じてお金を使えるように取り組んでいる。例えば地域のお祭りや、行事では屋台やお店で、お茶を飲んだり好きな物を食べたり、買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話や携帯電話を利用して随時電話をできるように支援している。年賀状、手紙等やり取りされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る。すぐに横になれるようにソファがあり畳のコーナーがある。テレビの音量は、会話のじゃまにならないよう、日差しは、ロールカーテンで調整している。温度については、適温に配慮し、好きな空間で過ごされている。	1階には食卓があり、ソファや廊下に畳ベンチなどを置き、2階にもリビングがあり、テレビを見たり趣味活動、一人や少人数になれる空間があります。利用者と一緒に作成した紫陽花の貼り絵や生花を飾り、季節を感じてもらえるようにしています。毎日掃除を行い清潔を保ち、利用者の体感にも配慮しながら温湿度調整を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当りのよい場所にソファを置いたり、玄関付近にイスを置く(玄関先で電話をする利用者様が居るため)。1Fの壁には利用者様が作った作品(貼り絵や塗り絵等)を名前つきで飾ることによって、利用者様同士がそれを見ながら楽しく話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、好みのカレンダーなどを持ち込んでいただき居心地良く過ごせるよう工夫している例えば自分で描かれた作品や写真、人形を飾ったり整理ダンス、テレビ等使われている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように説明し、持参したテレビや棚、鏡台、いす等を家族と相談しながら配置を決めています。大切にしている家族の写真やこけし、自身で描いた絵、カレンダーを飾ったり、趣味の本を読む方もおり、その人らしく安心できる空間作りにも努めています。毎日の掃除は利用者も一緒に行う方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ドアの開閉がしやすくなっている。トイレや浴室、居室等に目印を付けたり種々工夫している。		